

# 令和3年度 第3回舞鶴市図書館協議会

## 第1回舞鶴市図書館基本計画策定準備部会 記録（抄録）

日時：令和3年11月11日（木）

午後1時30分～3時30分

会場：舞鶴市立東図書館

### <議事>

- (1) 開会
- (2) 舞鶴市図書館協議会議事  
令和2年度事業実績報告及び令和3年度事業進捗状況について
- (3) 舞鶴市図書館基本計画策定準備部会議事  
議題① 検討会議の進め方  
議題② 舞鶴市の環境と図書館  
議題③ 舞鶴市の図書館利用  
議題④ 全国の同規模自治体の図書館政策とサービス
- (4) 閉会

### <会議録>

- (1) 開会 （13時30分）  
挨拶  
株式会社寺田大塚小林計画同人紹介
- (2) 舞鶴市図書館協議会議事

・令和2年度事業実績報告及び令和3年度事業進捗状況について

\*質問、意見は以下のとおり

### ★委員

・「図書館だより for Business」は紙の他にSNS等広く知られるようにされているのか。

### ☆事務局

・図書館ホームページで掲載している。その他、市民新聞や市のメール配信サービス、メディアにたくさん出る等、新しい取り組みを知ってもらうことが大事なので引き続きPRに力を入れていきたい。

### ★委員

・令和2年度の事業実績報告で、図書資料等充実経費で図書の冊数があがっているが、新聞雑誌はここに含まれているか。

☆事務局

・含まれていない。

★委員

・図書館蔵書オンライン予約数の記載の意図は。

☆事務局

・事業事務報告なので関連する数字をあげている。図書館の管理運営経費の中には、オンラインに関する維持管理費も含まれるため。

★委員

・庁内各課との連携状況で、高齢者支援課との「海さんぽみちを考える会」とはどんな会か。

☆事務局

・主に城北地域包括支援センターを拠点にし、海舞鶴線という遊歩道を地域の人々でできれいにする活動をされている会。その担当課が高齢者支援課で、地域の誰でも参加可能な打合せの会議を遊歩道の側にある西図書館で行っている。

(3) 舞鶴市図書館基本計画策定準備部会 議事

☆事務局

- ・図書館基本計画策定について、経過と今後の策定手法について説明。
- ・条例設置の図書館基本計画策定委員会を4月から設置する。
- ・本日から4月までは図書館協議会に図書館基本計画策定準備部会を設置したい。

★会長

- ・事務局提案のとおり、舞鶴市図書館協議会に図書館基本計画策定準備部会を設置し、基本計画策定に向け準備を進めることに異議はないか。
- ・異議なし、ということで、舞鶴市図書館協議会 図書館基本計画策定準備部会を開会する。

準備部会議題① 検討会議の進め方

\*質問、意見は以下のとおり

## ★ 副会長

- ・ 本日の資料に、全国から見て舞鶴市の図書館サービスはどのような位置にあるか、わかる資料がある。一般的に府内・県内などで比較することが多いが、住民税は全国どこでも同じくらい払うものなので、全国で比較した方が図書館サービスを享受できているか分かりやすい。
- ・ 舞鶴市は市民の自己実現を叶えるという政策を打っているので、サポートできるような図書館を考えたい。新しい地場産業つくる、子育てや健康医療に関する支援など、欧米型の個人や地域の課題解決ができる、従来の図書館+αの図書館を考えていきたい。
- ・ 西図書館と東図書館は車で10分程の距離にあるのに別々に利用されている。利用される図書館は移動時間15分程度と言われているが、その圏内に2つの図書館がある珍しいケース。新しい中央図書館ができると、東西地域の文化の統一のシンボルのような象徴的役割を持つようになるかと思う。

## ★ 委員

- ・ 送られてきた資料を読んで、自分でも調べたり楽しく温かい気持ちになった。図書館協議会に参加していてよかったと思った。

### 準備部会議題② 舞鶴市の環境と図書館

\* 質問、意見は以下のとおり

## ★ 会長

- ・ 舞鶴市の概況を理解していくための資料を提示された。舞鶴市は東西両拠点型の思考法を克服する必要がある、と私は考えている。なんでも東西一セットずつ施設があることは、街を発達させず、むしろ閉塞させるのではないか。
- ・ 簡単なのは東西図書館とも充実させることだが、それは予算上難しい。そうなれば予算の制約の中で最大限効果的な配置を検討するべきだろう。
- ・ 資料に示されたような舞鶴市の交通や居住状況を考え、いろんな立場や世代のことを考えて検討することが、この準備部会の使命である。

## ★ 委員

- ・ 資料②-1の居住分布や高齢化分布について、人口は平成27年のデータを使用していると資料にあるが、新興住宅街ができるなど居住分布や高齢化分布も変わり、今後、分布形態も移動していく可能性もあるのではないか。何年後かを見越して考えることも必要な、と感じた。

## ☆ 事務局（計画同人）

- ・ 令和3年「舞鶴市地域公共交通計画」と令和2年「舞鶴市統計書」を使用して居住分布

図を作成したが、いずれの資料も人口データは平成27年(国勢調査)のものを利用して作成されている。町別人口の最新がこのデータであったので、利用している。

- ・ここ数年で大企業の組織替えなどで雇用の変化もあったように聞いているが、どの地域に多く人が住んでいて、どこが高齢化しているか、というおおよその構造を知るのに役に立つと考えた。

#### ★ 委員

- ・現況の居住分布や高齢化分布については分かった。
- ・舞鶴市でもコンパクトシティ化を進めていくと思うが、人口密度もいずれ集中していくのではないかと思う。

#### ☆ 事務局（計画同人）

- ・「コンパクトシティ理論」は、簡潔に言うと、都心部で皆で集まって住めば公共サービスやインフラ整備等が小さくまとまり経済的に良い、ということだが、先祖代々住んでいる土地や農耕地から離れて暮らすことも難しいので、歴史の古い地方都市では成立しづらいという側面がある。
- ・舞鶴市は「便利な田舎暮らし」を標榜し、遠隔地でも豊かな暮らしを目指していると総合計画でも発表されている。コンパクトシティという考え方はありつつ、それでは補えないところに住む方にもサービスは届けられるべきかと考える。

#### 準備部会議題③ 舞鶴市の図書館利用

\* 質問、意見は以下のとおり

#### ★ 委員

- ・資料③-1で、高齢化していて子どもも少ない地域は、住民1人1年間の貸出冊数が1冊程度で地域の環境が影響しているということが分かる。
- ・過疎地域は地域バス(自主運行バス)があるが公共ではない。東西循環バスも40分に1本で、渋滞で時間どおりに運行されないことも多々ある。

#### ☆ 事務局（計画同人）

- ・加佐公民館と大浦会館で職員にヒアリングをしたところ、高齢化や人の集まり方に差があることが分かった。図書館サービスが届いていない理由に違いがありそうで、対処を検討すべきかと考えている。

#### ★ 副会長

- ・浦安市はかつて半農半漁で、図書館をつくっても本など読まない、という声もあったが、図書館が使われ始めたら年間200万冊の貸出となっている。

- ・日本人は民度が高く、誰でも教養・知的欲求が高い。図書館では職業に役立つ専門書や本以外のメディアや講演会などもニーズがある。
- ・10年後には高齢世代もスマートフォンを使いこなすようになる。メディアを使って情報発信すれば、図書館に来なくても情報を取得できるようになるだろう。
- ・自動運転車の発達やドローンでの遠隔地配達などの発展も見込まれる。山奥でICTを活用して仕事をする人も増えるかもしれない。10年スパンで考えても公共交通の利便性にこだわる必要があるだろうか。

#### ★ 委員

- ・府立舞鶴支援学校の学校図書室がどうなっているかも、気になっている。社会的に弱い立場の人への本の提供はどうなっているだろうか。
- ・舞鶴工業専門学校の図書室には9.2万冊の蔵書があり、パソコンや雑誌も多くあると聞いている。図書館と連携して使えれば良いと思う。

#### ★ 会長

- ・弱い立場の方、養護学校や障害者施設へのサービスも考えなければならない。大切な視点である。

準備部会議題④ 全国の同規模自治体の図書館政策とサービス

\* 質問、意見は以下のとおり

#### ★ 会長

- ・全国の同規模人口の自治体のサービスと舞鶴市の現況を比較すると、悲しくなる数字であるが、これから上昇するという希望を持って考えていきたい。
- ・資料には、手を打てば利用が伸びるアイデアもちりばめられていたかと思う。

#### ★ 副会長

- ・資料④-1 都会のベッドタウンでないところも年間貸出50万冊以上のランキングに入っている。財政力指数が良いところばかりではない。お金持ちの自治体が活動が良い図書館を作っているというわけでもなく、財政の豊かさと図書館の利用に相関関係がないということに注目したい。

#### ★ 会長

- ・資料④-1の各自治体の決算、財政力指数の数字を追加資料として作って下さい。
- ・財政が豊かだから図書館に力がある、という自治体はなくて、ほとんど相関関係はない。市民の図書館に対する支持度と参画度が自治体の投資に関係する。この証明は難しいので、相関関係がないことをデータではっきりさせればよいのでは。お金が無いから

図書館を作らないという言い訳はできない。

★ 委員

- ・ 舞鶴市では財政の逼迫を度々言われるが、市民の参画が大切だと思う。やりたいことができなくなっていく。

準備部会第1回 全体を通しての意見、感想

★ 委員

- ・ 資料に気に入った言葉があった。「『都市のひろば』であるということ。本に出会い、物に出会い、人に出会い、自分を確かめる『ひろば』 素敵言葉だと思った。

★ 委員

- ・ 利用実績を計るのはどうしても貸出冊数になるが、図書館の利用者は借りずに雑誌を読むだけの人もいる。利用者数の統計がとれると良いなと思った。

☆ 事務局（図書館）

- ・ 過去に利用者数の統計をとったことがあるが、現在の実態を表した数字とは言えない。
- ・ 入口で入館者をカウントする設備がないので難しいが、一定程度の類推することもできると思うので、検討したい。

★ 副会長

- ・ 毎日ではできないが、サービスデスク担当が時々利用者数をカウントしてみるということはあるだろう。
- ・ 市民一人あたりの貸出冊数は図書館の総合力が出るので、サービス指標を図るのに信頼できる数字と考えてよいのでは。

★ 委員

- ・ 様々な数字で見せてもらったが、図書館それぞれに歴史がある。特効薬のようなものがあって一気に数字が上がるのか、市民のかかわりや利用が上がるまでにかかった年数が分かれば面白いなと感じた。

★ 委員

- ・ 福知山市立図書館はBM（移動図書館車）が2台ある。舞鶴市も自動車社会だが、BMや本を届けるのに日々往復するデイサービスや幼稚園等の送迎バスなどを利用できたら仕事が半分になるのに、と思う。
- ・ 「サウンドオブサイレンス」と言われるものを聴取する方法を考えたい。

## ★ 委員

- ・ アウトリーチサービスについて、興味深く資料説明を聞いていた。舞鶴市立図書館では子ども向けのお話し会などがあるが、大人向けのサービスはなにかできないかと思う。大浦など遠隔地には、出かけて行けば良いのではないか。うまく当たれば話題になり、全市的に伝わるのではないか。

## ★ 委員

- ・ 図書館協議会でずっと議論してきているが、基本計画準備部会にも責任の重さを感じる。
- ・ 図書館協議会のいままでの積み上げを整理して見える化した資料をつくってもらい、何にアンテナを張って何をリサーチしたら良いかわかった。
- ・ 中央図書館の議論のなかに学校図書館の資料が入っていてうれしく思った。30年前、岡山県では既に学校司書の配置がされていたが、舞鶴市は学校司書が未だ配置されていない。資料費も少なく活動が苦しいなかで、学校図書館は、ボランティアの育成なども含め公共図書館に助けてもらってきた。感謝している。
- ・ 報告にあったが、広報でも庁内各課と図書館の連携が進んでいる様子があった。
- ・ 図書館の利用イメージが様変わりしてきている。最近は居場所として利用されている人が見られ、従来の親子や高齢者の利用だけでなくなっているようだ。

## ★ 副会長

- ・ まちの成り立ちや歴史上いろんな必然や理由があって現況があるのだが、その善し悪しではなく、純粋に事実として現況を見ることが大切。
- ・ 資料④-1の利用率の高い図書館に北海道の自治体が入っていた。北海道のような経済的・地理的にきびしい環境でも自立していかなければならないところでも、町村で図書館に力を入れている自治体がある。まち全体でレベルアップしていかなければならない切実な事情がある。置戸町の図書館では、吹雪の中でも移動図書館が出て行く。ビジネス支援などと言われる前から林業の専門書を集めていた。
- ・ 舞鶴市はすぐに京都に出られるので、切実でない。必要であれば皆本を買う。必要とされる資料の充実度が合えば、図書館は大いに利用されるだろう。
- ・ 移動時間が10～20分であれば、図書館の魅力が上がれば自然に人が集まる。蔵書規模30万冊を超えると図書館の利用は一気に上がる。ある程度規模が大きい中央図書館が出来れば良いと思うが、舞鶴市では図書館は2つ必要だと言われるかもしれない。段階を踏んで考えたい。

## ★ 会長

- ・ 東舞鶴、西舞鶴はふたつの中心地が近接している。このふたつの中心地域よりも外側に、過疎や高齢化が進んでいて課題があると考えられる。アウトリーチのシステムをど

うつくるかが問題。BMのみでなく、市民人材が集積する拠点施設があって、そこに分館を作ってもよいのではないか。

- ・平成の30年間で2万人程の人口減少が見られる。今後、小学校区単位の自治行政体を導入することも考えられるのではないか。情報装備、拠点間のネットワークの強化、地域独自の防災対策などをそれぞれにやっていくようになる。中央図書館はそれらの課題を受けて立つ存在になるべきである。
- ・そういった方向ではなく、やはり東図書館・西図書館のふたつの図書館が要るか、皆さんで議論を深めていただきたい。私は資本の無駄になるように思う。使える図書館の蔵書規模が30万冊だとすると、東西2箇所に設置することは財政上難しいだろう。
- ・「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」とは、図書館のミッションである。いつでも：時間や天候に左右されない、どこでも：地理的な偏在がないこと、だれでも：職業人・小中学校や養護学校・障害者施設なども忘れずに、どのようなものでも：教養書もだが他のものも要る。これは資料費を増やすしかない。舞鶴市は資料費が乏しい、教養書もいままでどおり必要だがさらに資料の種類を豊富にする資料構築をしていきたい。

#### ★ 副会長

- ・自治体に予算がないから資料費が少なくてよいのか。例えば置戸町の図書館では、自治体が生き残っていくため、産業が育って税収を上げるために林業の資料を収集していた。健康医療に関する資料を収集して市民が医療情報を手に入れ、健康になれば税金の支出が減ることになる。
- ・経済的財政的に効果のある図書館であることは、重要なポイントになる。
- ・新しい図書館は、特効薬になる。新しくなれば利用が増えるので。
- ・舞鶴市では地道に運営していったら、最後に新しい図書館を作ってはずみをつけていくと良いと思う。

#### ☆室長閉会挨拶

(4) 閉会 (15時30分)